

## 平成 25 年度決算、平成 26 年度予算に関する説明

財務担当事務局

平成 25 年度決算に関する主な留意点は以下の通りである。

### 【収入について】

- \* 会費収入が当初の見込みを下回った。一般会員の滞納に因る。
- \* 書籍販売・公告収入については、『アジア研究』58 巻 3 号・4 号分について請求し、平成 26 年度決算に組み入れる予定である。
- \* 国際交流積立基金取崩は行わなかった。

### 【支出について】

- \* 業務運営費（お茶の水学術事業会による学会事務代行費用、法人移行に際しての司法書士・タックスアイズへの支払い、補佐・アルバイト代など）は予算を上回ったが、必要経費であり、今後も減額は見込まれない。
- \* 業務旅費に関しても、理事会出席のための旅費であり、今後も減額は見込まれない。
- \* 法人都民税は、平成 25 年度分を平成 26 年 4 月に納付したため、平成 25 年度決算には流動負債として計上した。今後年間 70,000 円の納付が義務づけられる。
- \* 学会連合費については、今期の支払いは「地域研究学会連絡協議会」分担金（2013 年度・2014 年度分）のみであった。
- \* 謝金に関しては、全国大会の宇根・高橋両氏への謝金のみ本科目に計上し、東日本大会・西日本大会の非会員への謝金は大会費に組み入れてしまった。
- \* 『アジア研究』の刊行が、58 巻 3 号・4 号のみにとどまったため、機関誌編集・印刷費は、予算を大幅に下回った。
- \* 定例研究会費については、報告者・討論者による旅費請求が少なく、予算を下回った。
- \* ニュースレターは、第 40 号の刊行が平成 26 年 4 月になったため、今期は 1 号分の支出であった（平成 26 年度には 3 号刊行の予定である）。
- \* J-STAGE 導入に向けたアルバイト代として 54,000 円を支出した。
- \* 平成 25 年度には名簿印刷を行わなかったため、支出は無かった。

以上の結果、当期収支差額は△147,902 円、繰越額は 11,118,265 円となった。

平成 26 年度予算に関する主な留意点は以下の通りである。

- \* J-STAGE 導入のための経費として 1,000,000 円を計上した。
- \* 名簿印刷のために 2,180,000 円を計上した。